

三木駅の再生に関するアンケート調査結果

調査概要

1 調査期間

平成30年7月23日(月)～平成30年9月10日(月)

2 調査対象者

(1) 三木駅から半径500メートル圏内の沿線自治会

約2,700人(末広自治会ほか計21自治会)

(2) 駅利用者

約300人(1日当たり三木駅利用者約1,400人/日の2割程度を想定)

3 調査方法

(1) 沿線自治会には、各区長を通じアンケート調査票を送付

(2) 駅利用者には、三木駅前においてアンケート調査を実施

4 配布・回収状況

配布数(枚)	回収数(枚)	回収率
3,000	1,538	51.3%

問1 あなた御自身のことについてお尋ねします。

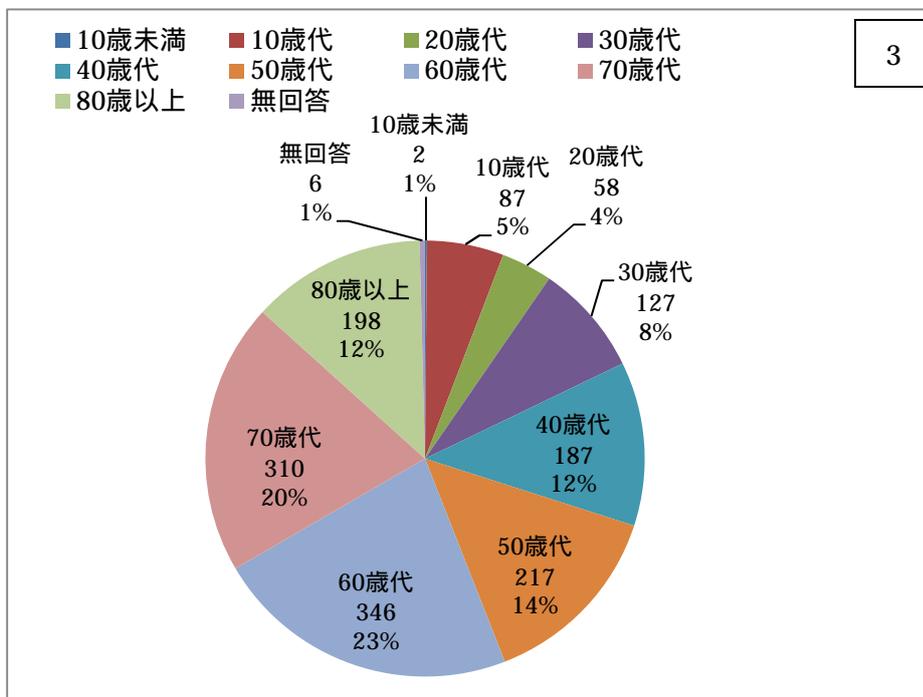
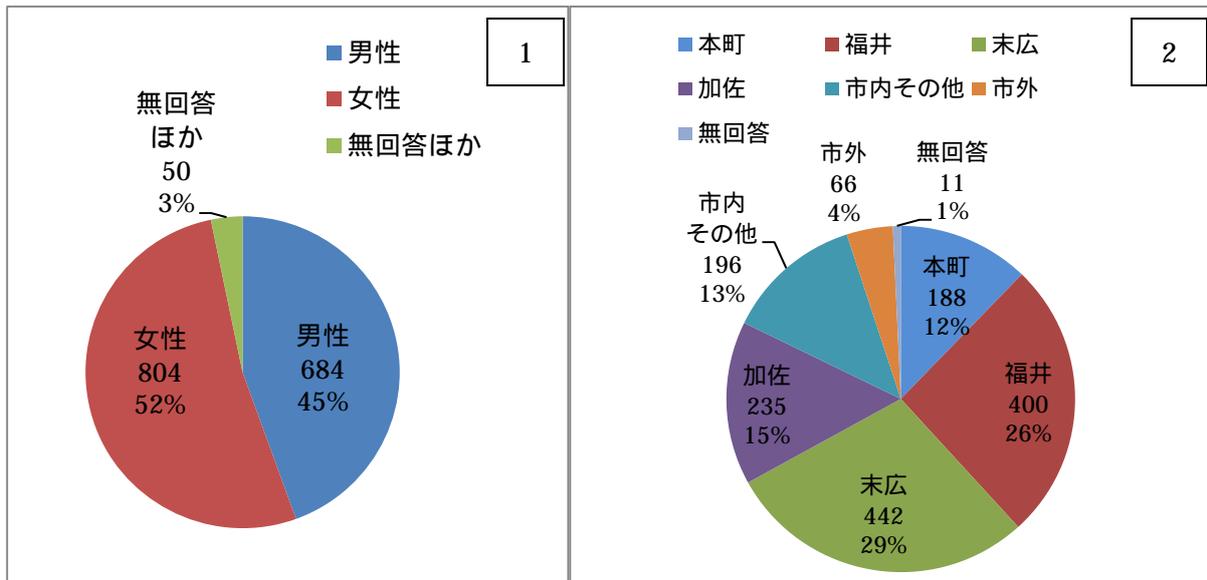
(1) 性別 (2) 年齢 (3) 居住地

男女別では、女性の割合が大きくなっています。

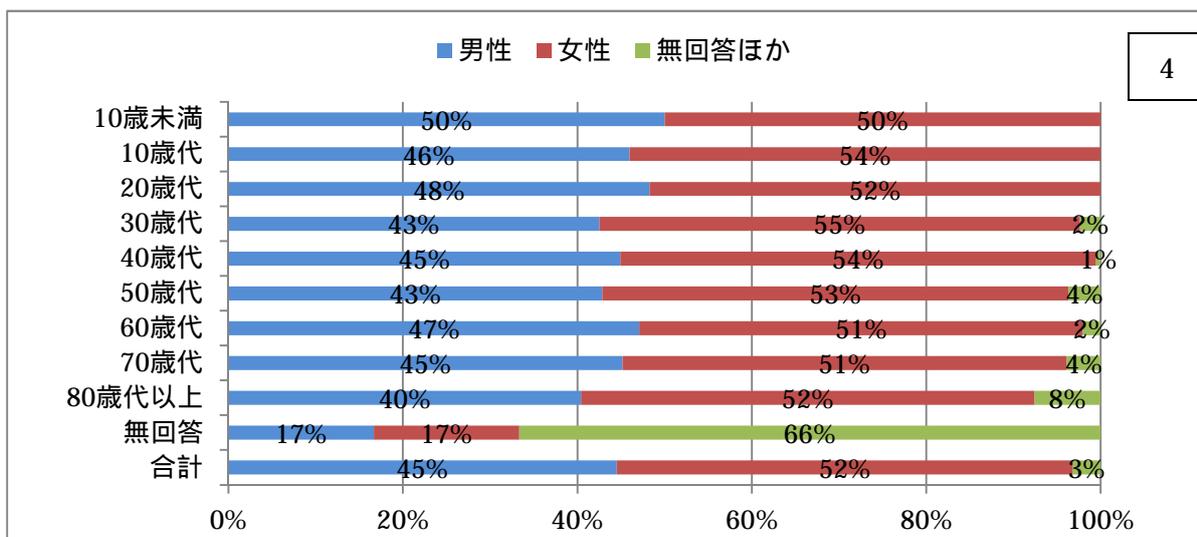
年齢別では、「60歳代」「70歳代」「80歳以上」の合計が約6割となっています。

一方、40歳代未満は約2割以下と、少なくなっています。

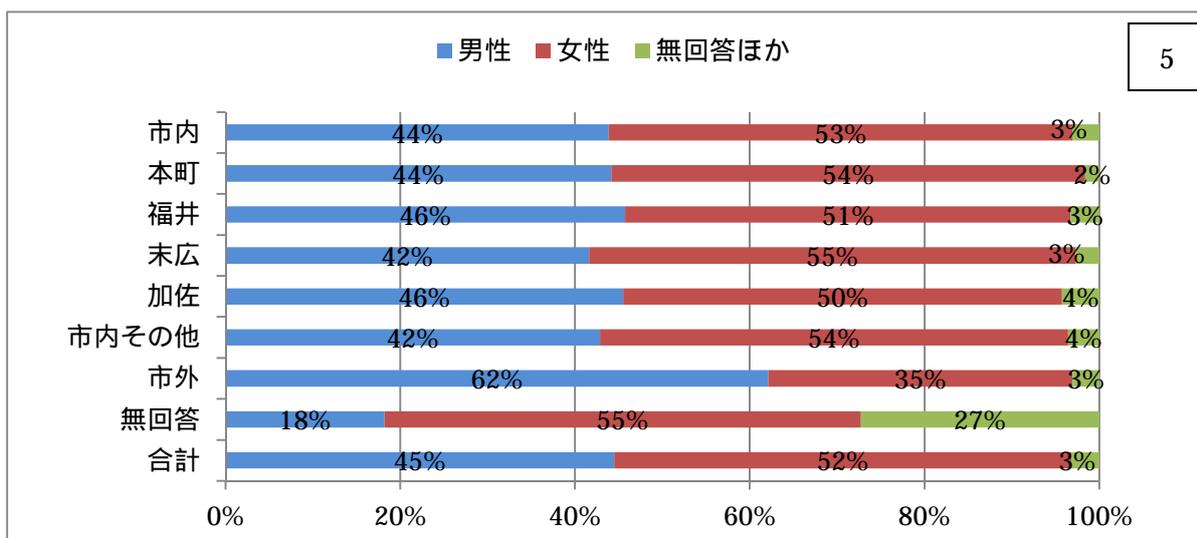
なお、市外回答者は66件と、全体の約4%となっています。



各年齢層において合計の割合と大きな差はなく、いずれも女性の割合がわずかながら大きくなっています。

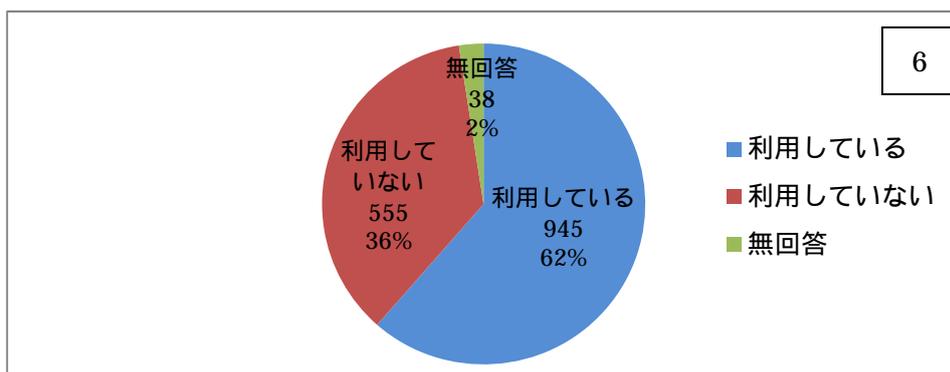


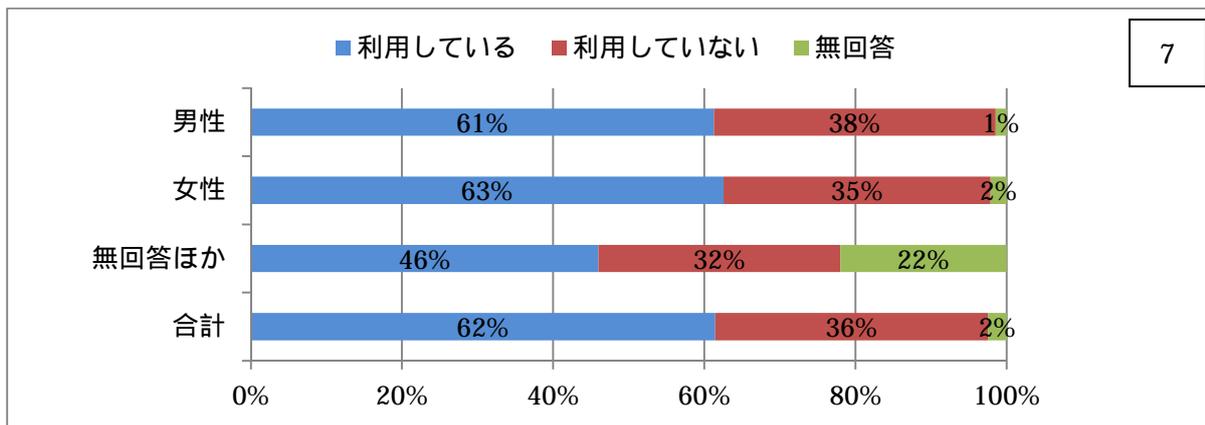
居住地別においてもおおむね女性の割合が大きくなっていますが、市外回答者については男性の割合が大きくなっています。



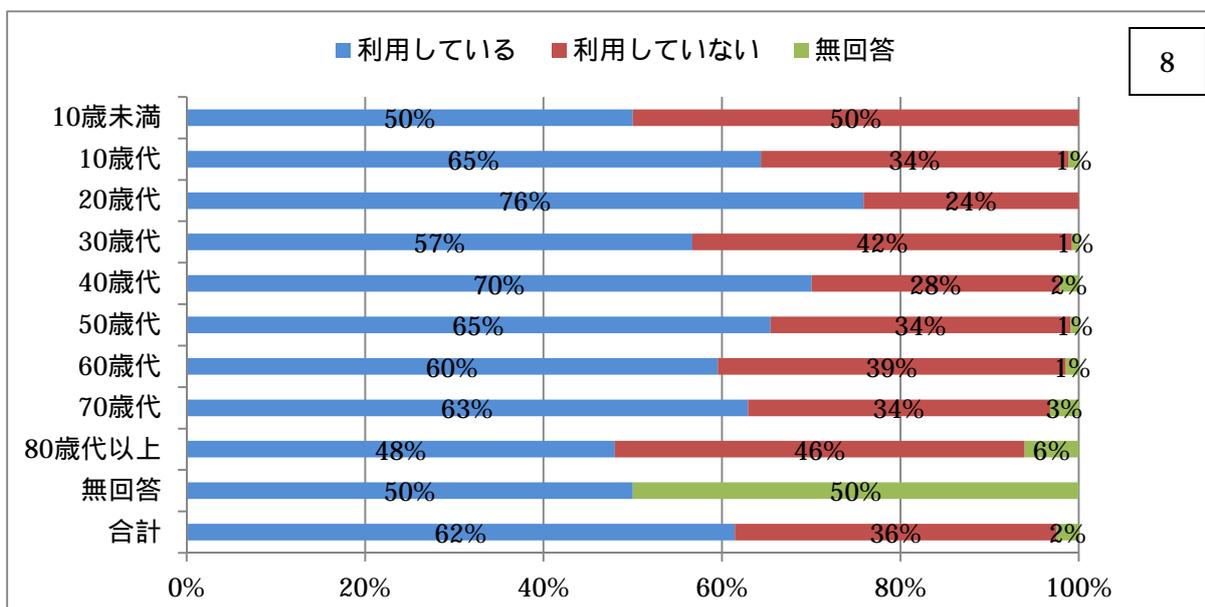
問2 あなたは三木駅を利用していますか？

回答者の約6割が三木駅を利用しています。

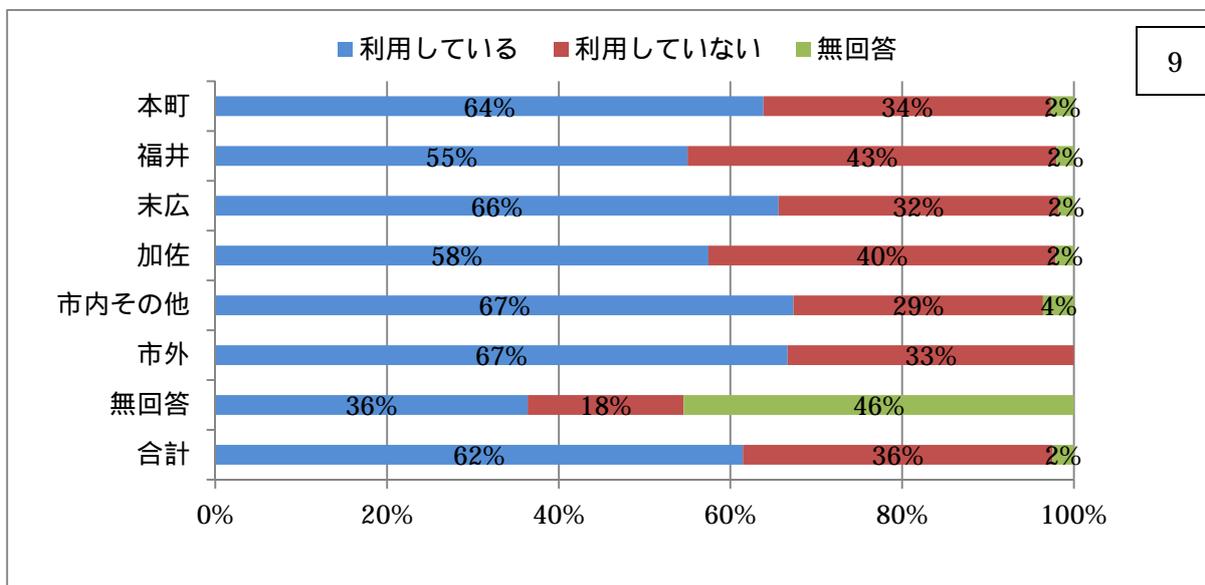




年齢別にみると、20 歳代の利用率が 76%と高いことから、学生などの利用が多いことが考えられます。



市内その他（本町、福井、末広及び加佐以外の地区）の回答者のうち約 7 割が三木駅を利用しています。



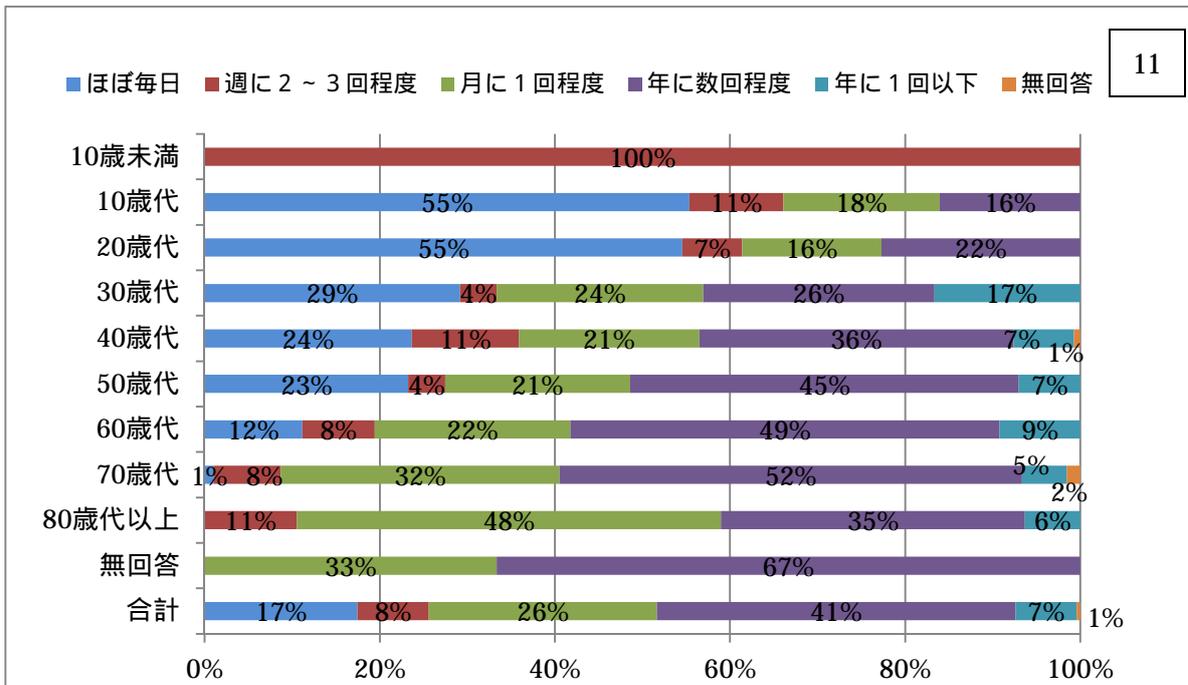
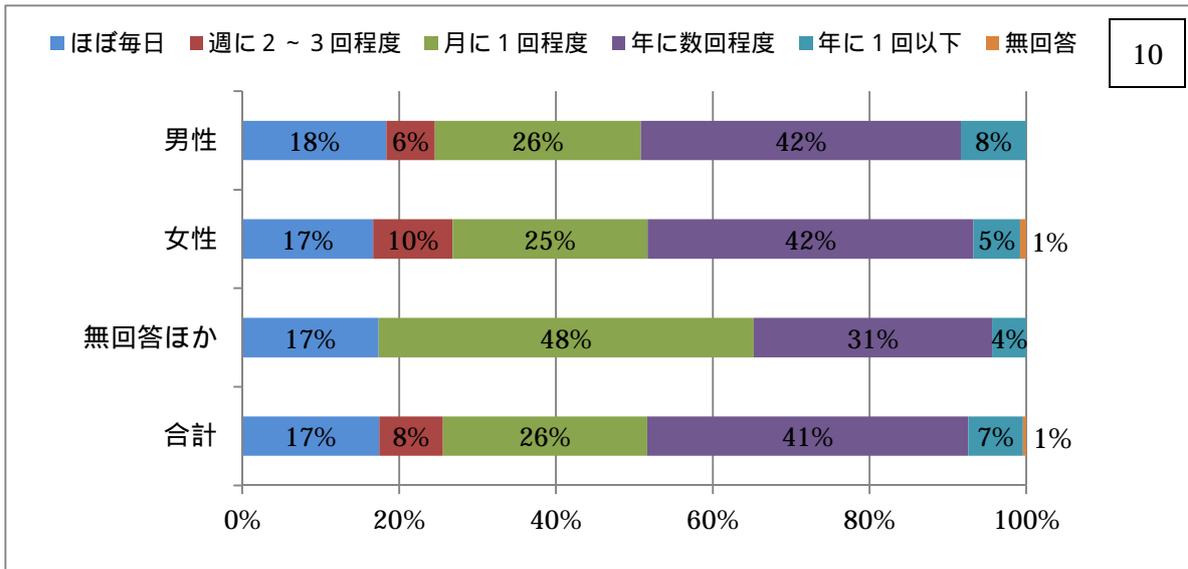
問3から問7までは、問2で「利用している」と回答のあった945件のみを集計

問3 あなたは三木駅をどれくらいの頻度で利用していますか？

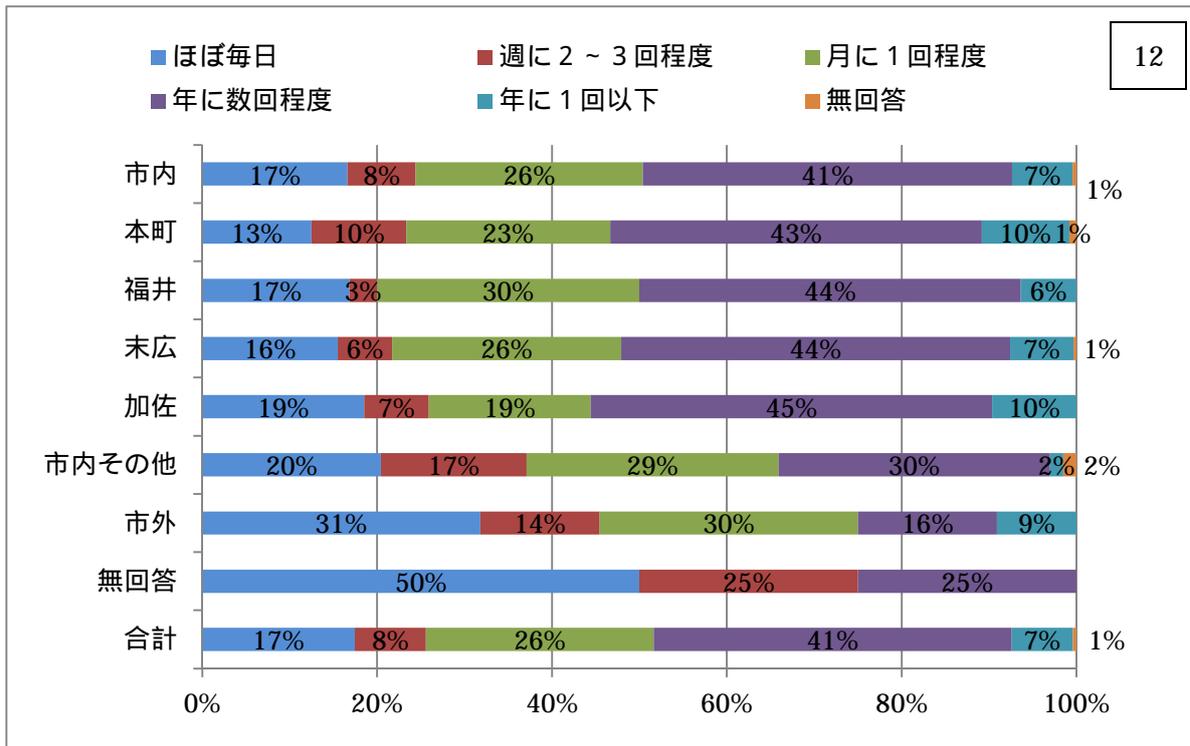
いずれの項目においても、「月に1回程度」「年に数回程度」の割合が大きくなっています。

10歳代、20歳代は学校等があるため「ほぼ毎日」の割合が大きくなっていますが、年齢層が上がるにつれ利用頻度が少なくなっています。

また、20歳代と30歳代の間で、「ほぼ毎日」の割合に約3割の差がみられます。

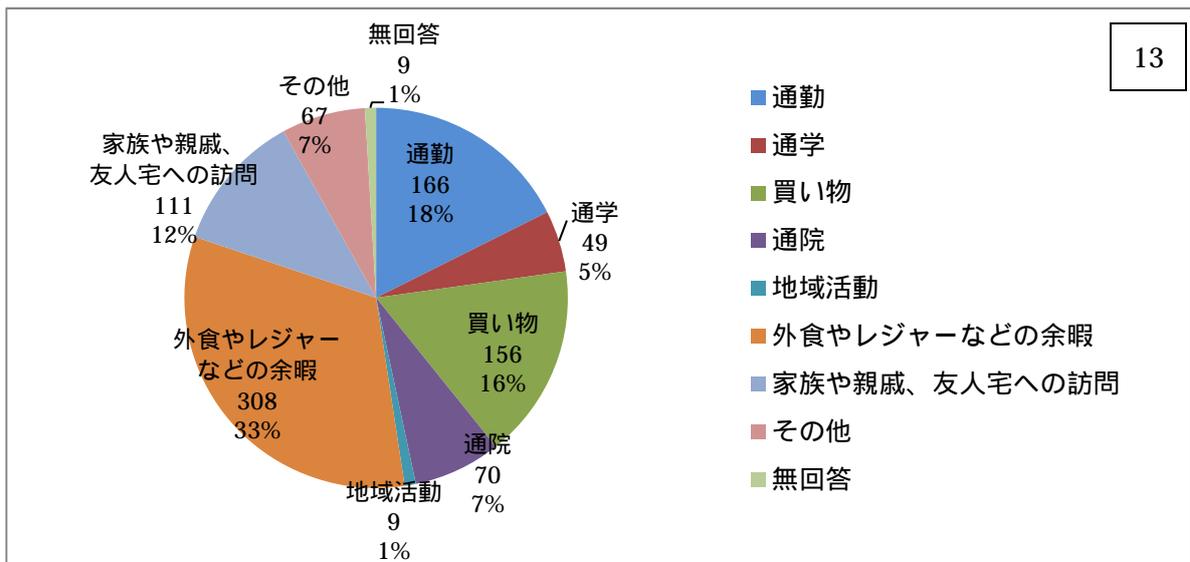


三木駅周辺地域においても、「ほぼ毎日」「週に2～3回程度」の利用は少なく、「月に1回程度」以下の割合が約7割となっています。

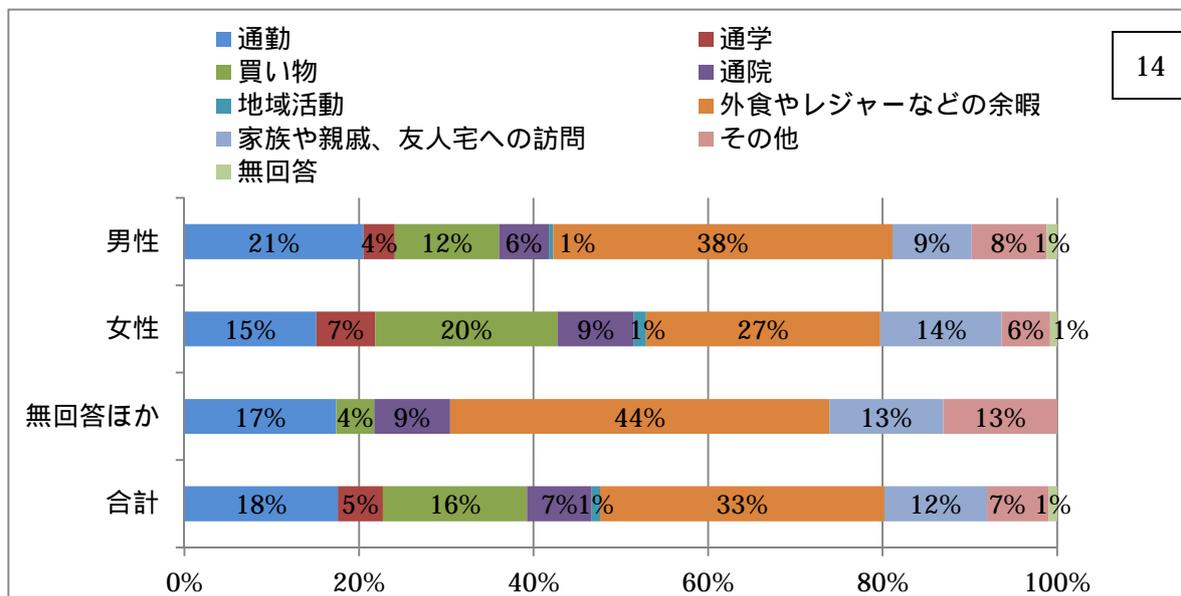


問4 三木駅を利用する主な目的は何ですか？

上位3件は「外食やレジャーなどの余暇」33%、「通勤」18%、「買い物」16%となっており、レジャーや買い物などの利用目的が約5割を占めています。

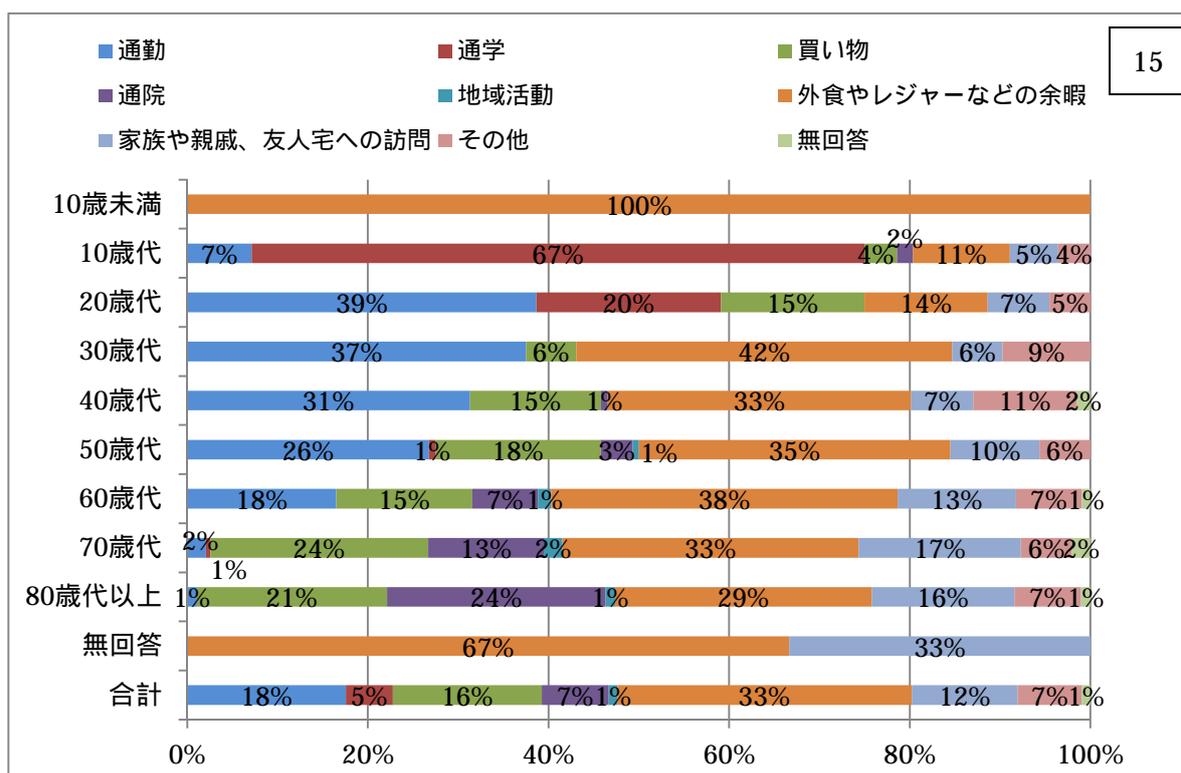


男女別にみると、男女ともに「外食やレジャーなどの余暇」の割合が最も大きくなっていますが、それ以外では、男性では「通勤」の割合が、女性では「買い物」
「家族や親戚、友人宅への訪問」の割合がそれぞれ大きくなっています。

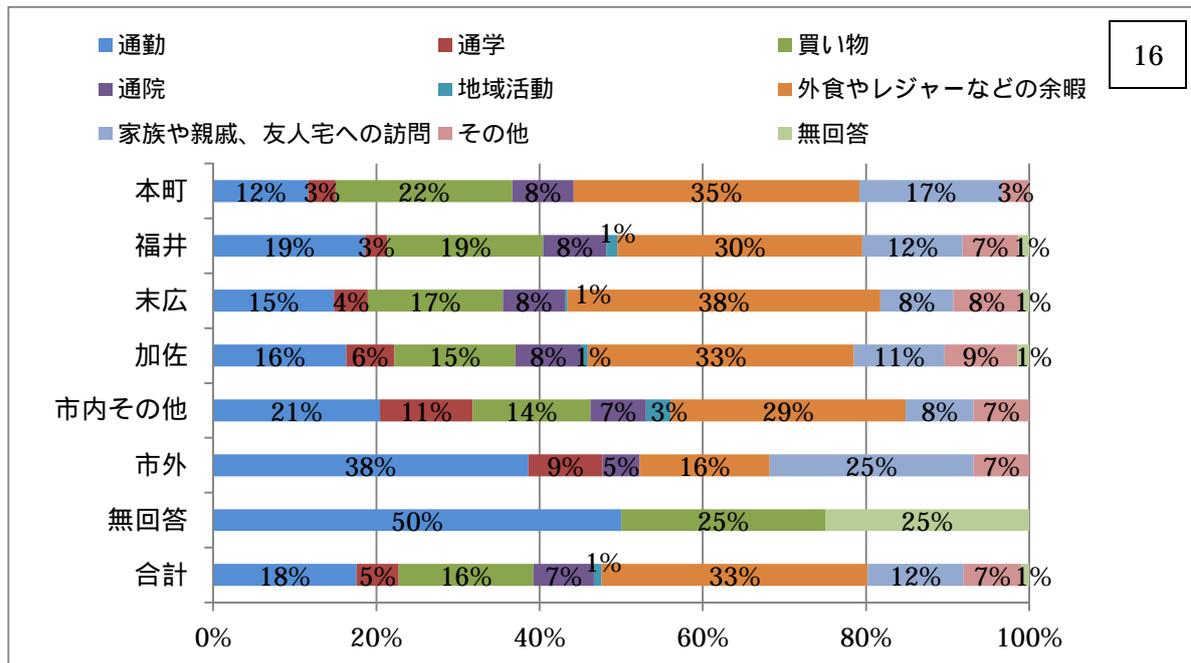


20歳代以下では「通勤」「通学」の利用が多いですが、30歳代から40歳代を境に「買い物」「外食やレジャーなどの余暇」の利用が多くなっています。

60歳代以降になると「通勤」の割合が減少する一方、「買い物」や「通院」などの割合が大きくなっています。

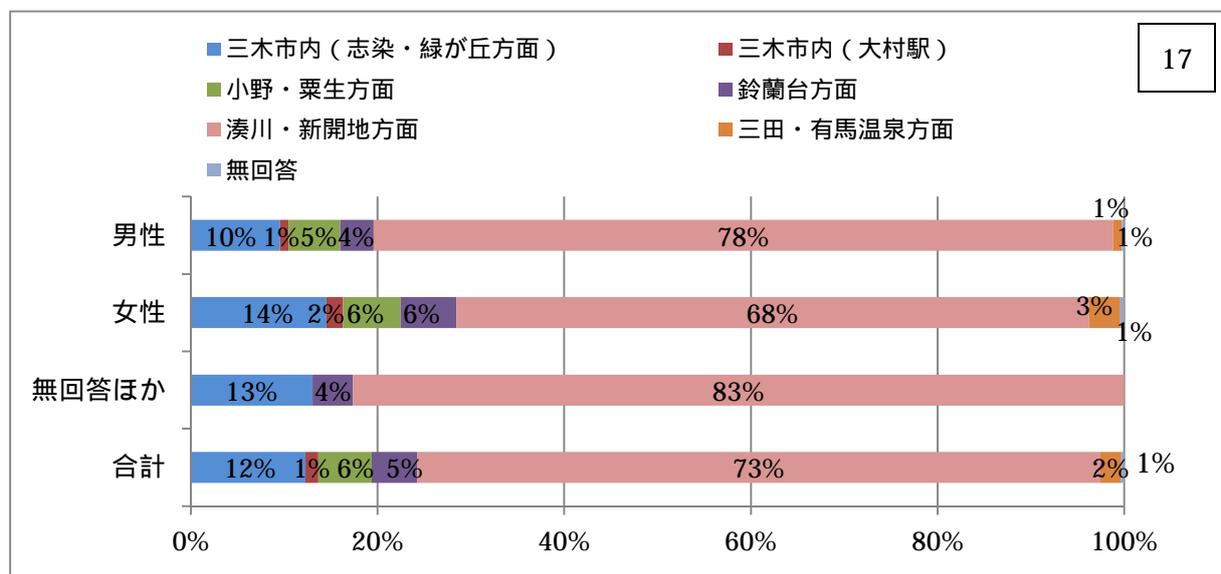


市外利用者をみると、市内地区と比較して「家族や親戚、友人宅への訪問」を目的とした利用が多くなっています。



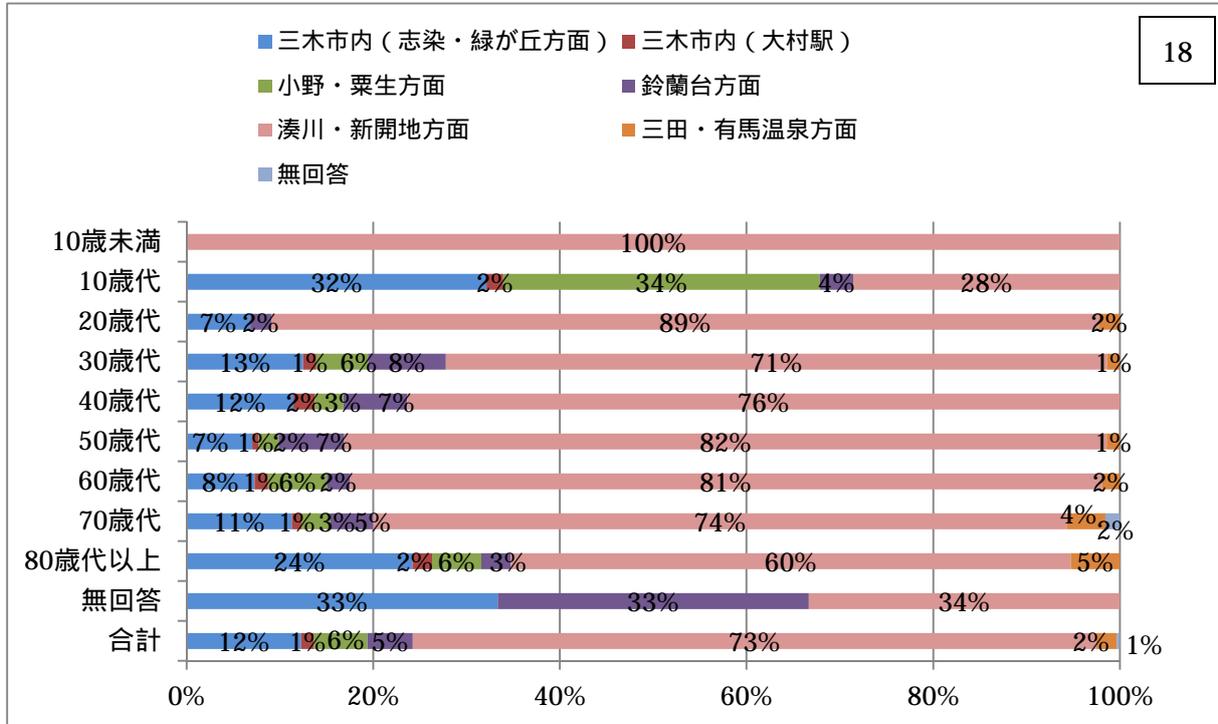
問5 三木駅から粟生線を利用し、主にどちらの方面へ行かれますか？

「湊川・新開地方面」が約7割と圧倒的に多くなっています。

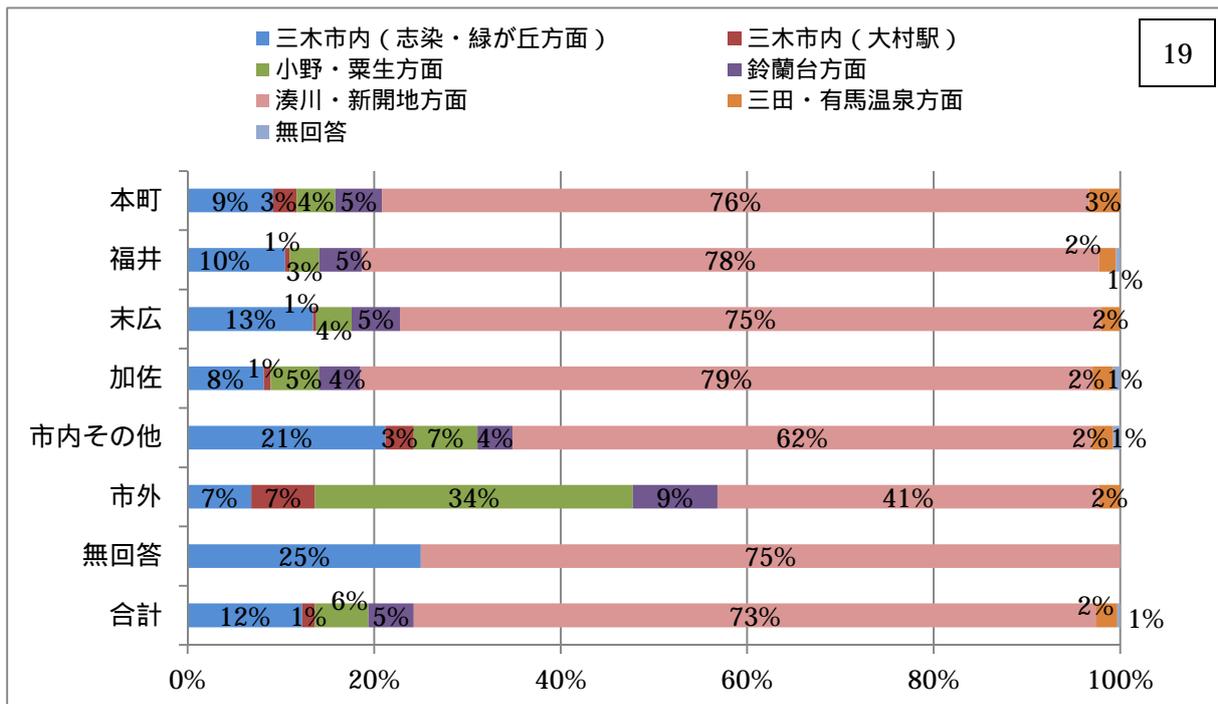


年齢別にみると、10歳代では高校への通学利用のため、「三木市内（志染・緑が丘方面）」「小野・粟生方面」がそれぞれ約3割となっています。

80歳代以上になると「三木市内（志染・緑が丘方面）」の利用が多くなっています。



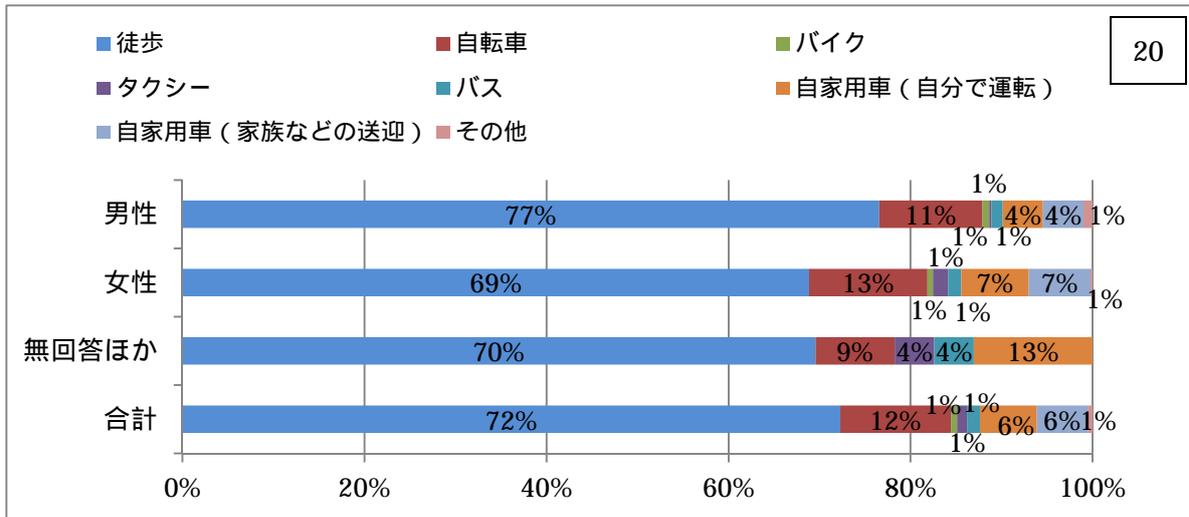
居住地別の割合をみると、市外利用者のうち34%が「小野・粟生方面」となっています。



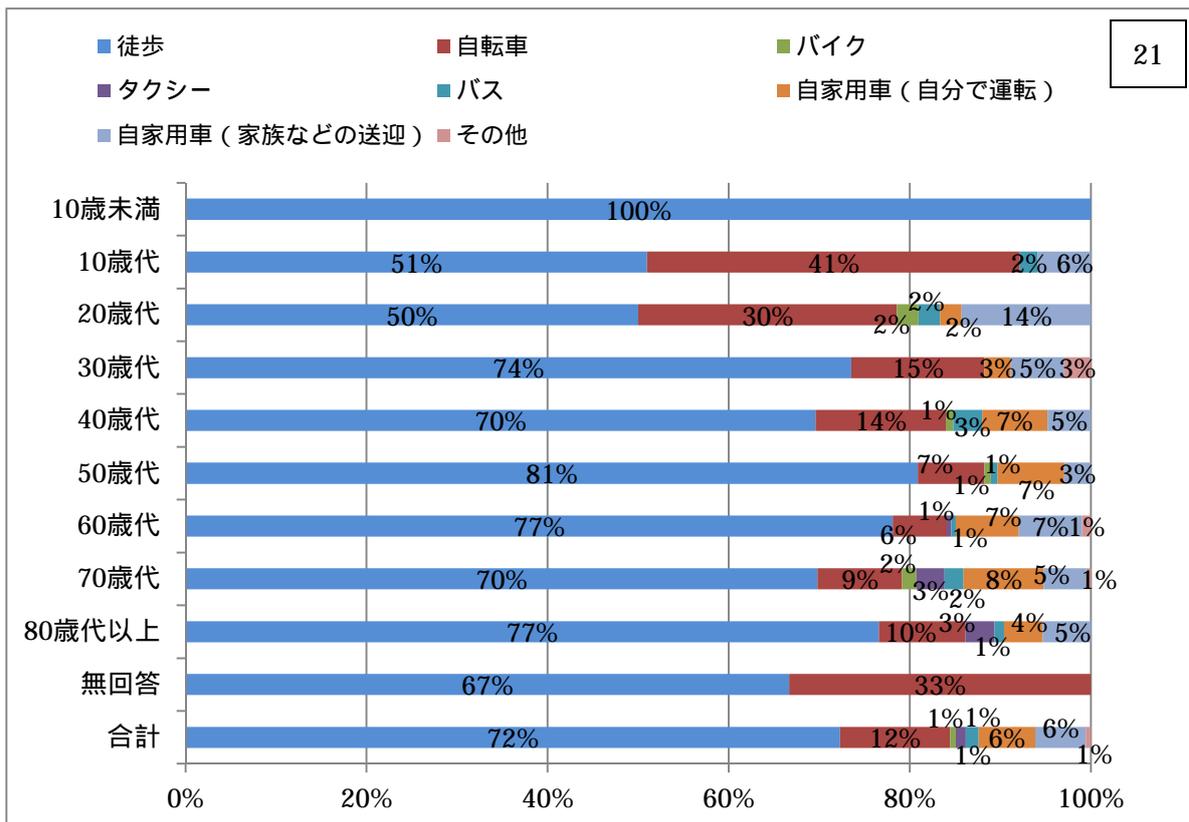
問6 (1) 三木駅から乗車して目的地に向かわれるかたにお尋ねします。

自宅(出発地)から三木駅までの移動手段は何ですか？

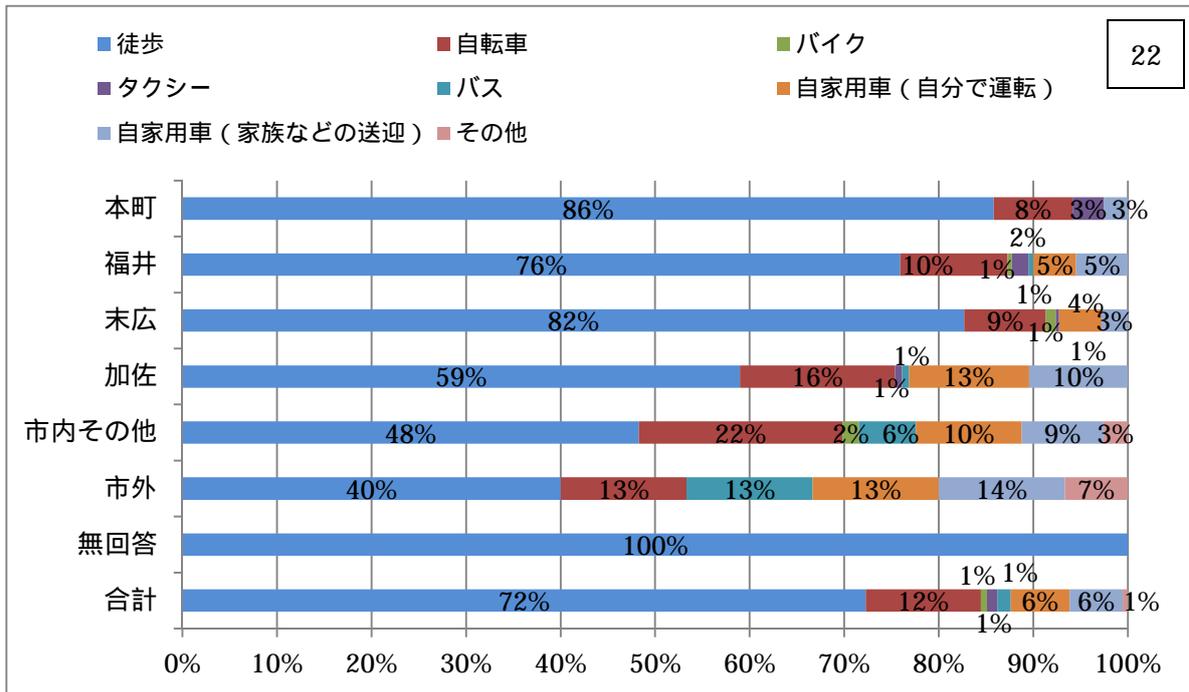
全体では「徒歩」が72%、「自転車」が12%となっています。



10歳代では、学生などによる「徒歩」「自転車」の割合が大きくなっています。



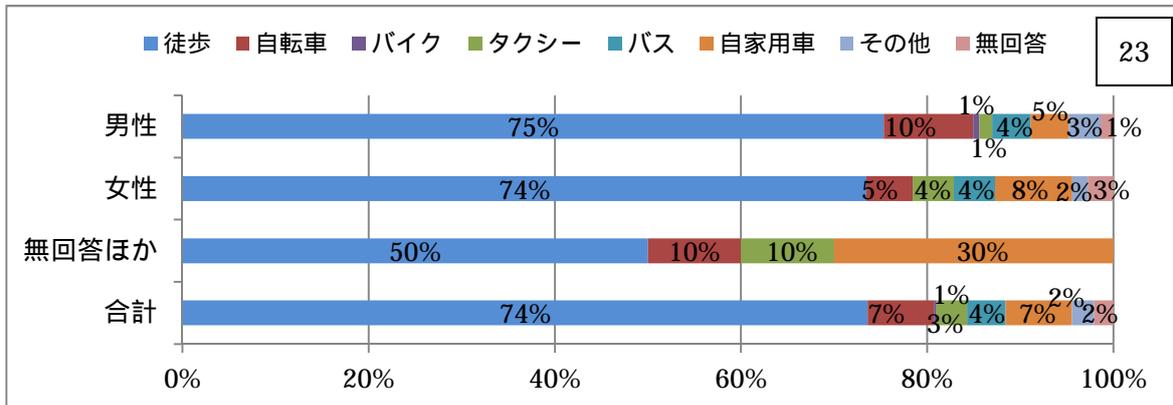
居住地別にみると、「市内その他」では「自転車」の割合が22%と、「徒歩」に次いで大きくなっています。



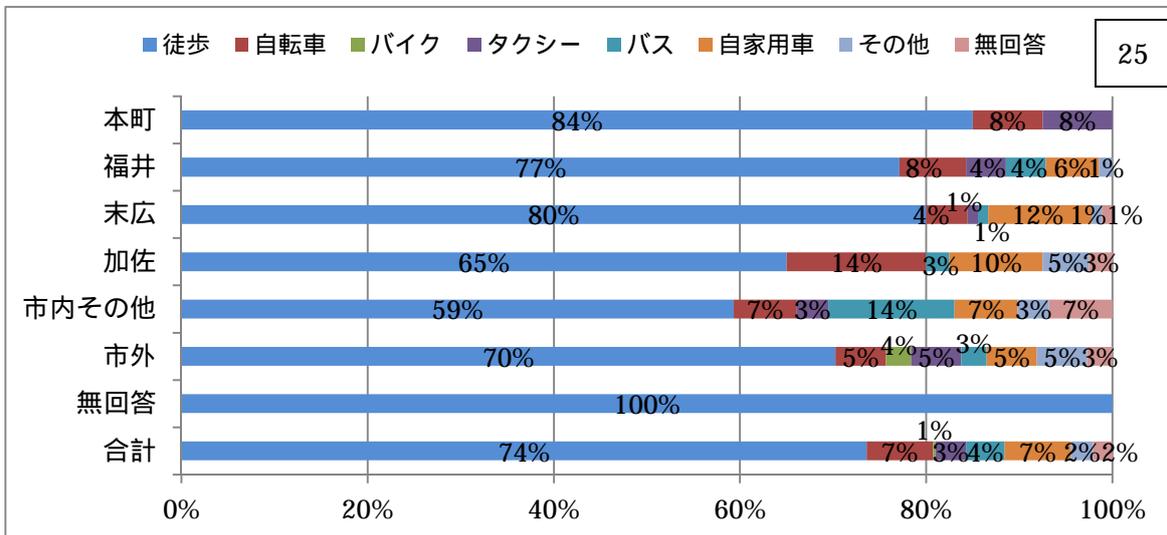
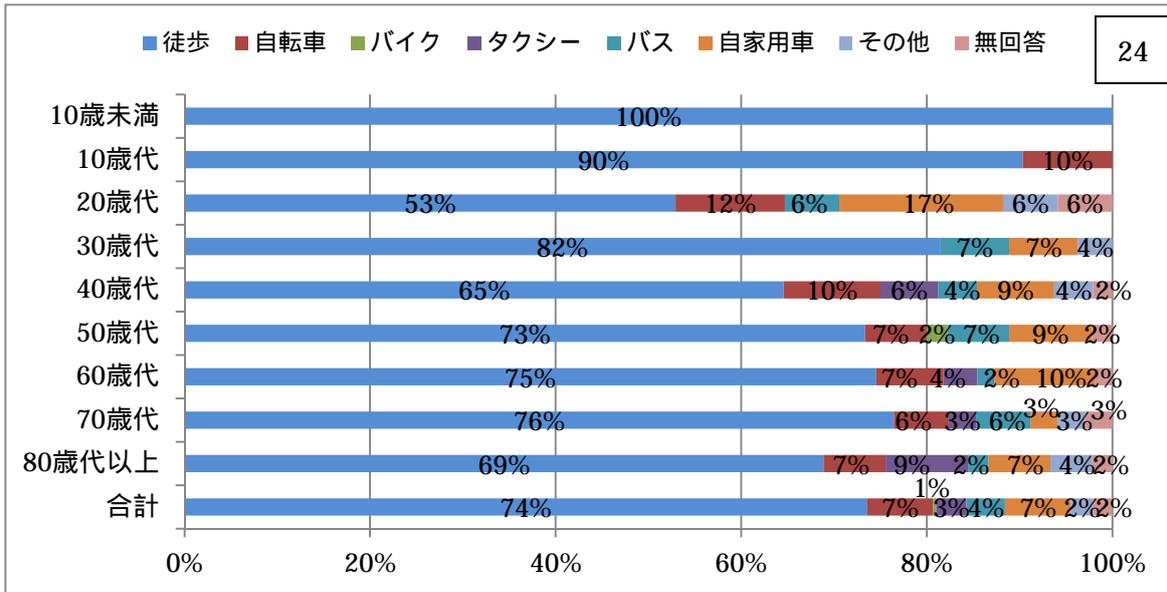
問6 (2) 三木駅で下車して目的地に向かわれるかたにお尋ねします。

三木駅から目的地(会社・学校等)までの移動手段は何ですか？

こちらも問6(1)と同様、「徒歩」の割合が大きくなっています。



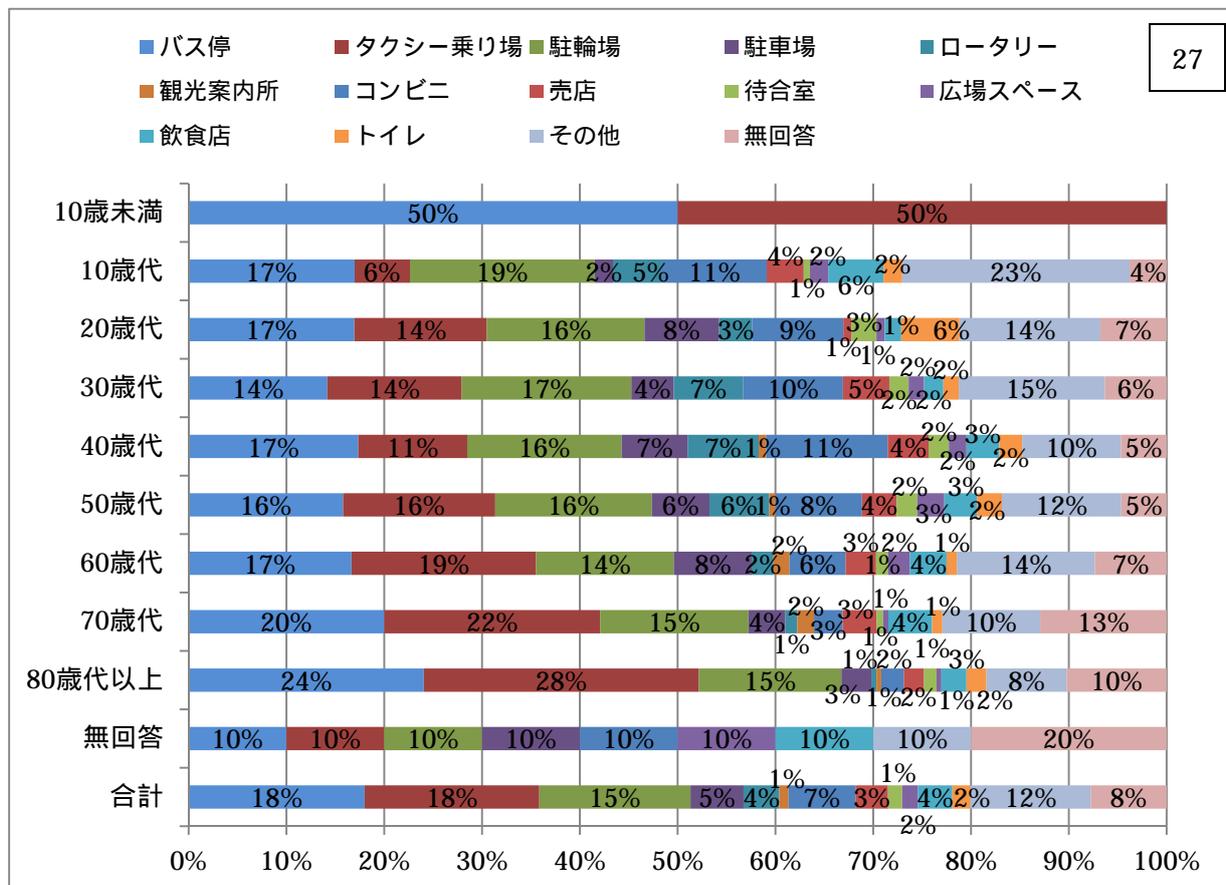
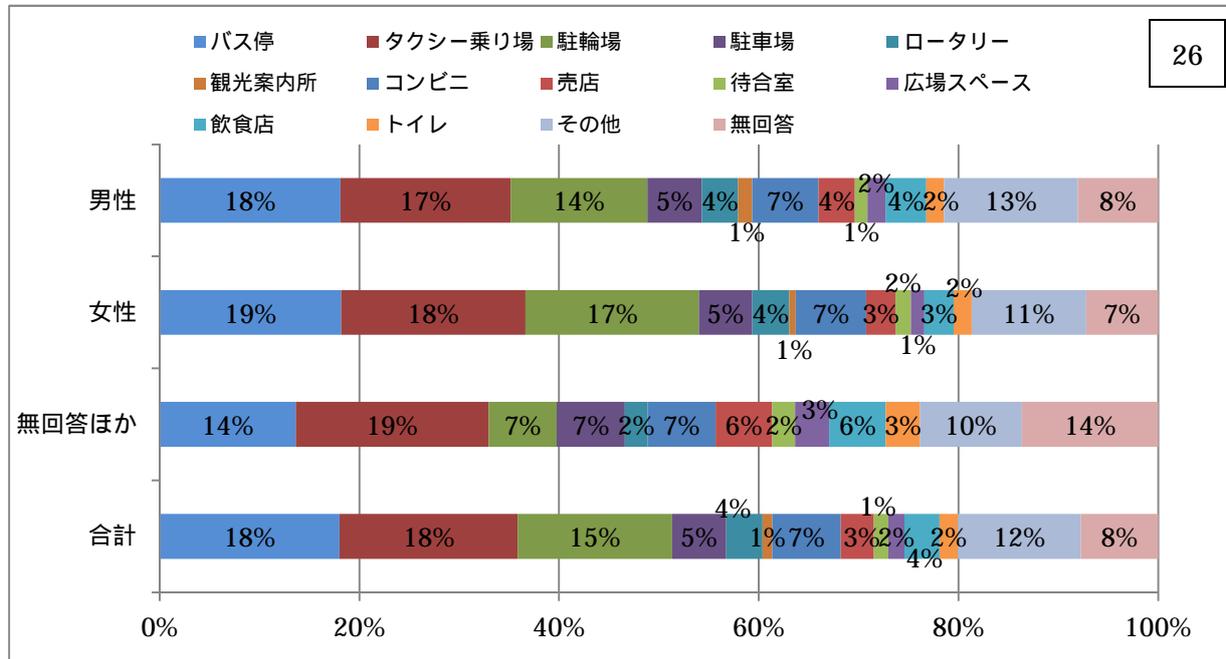
80歳代以上では「タクシー」が9%と、「徒歩」以外では最大となっています。

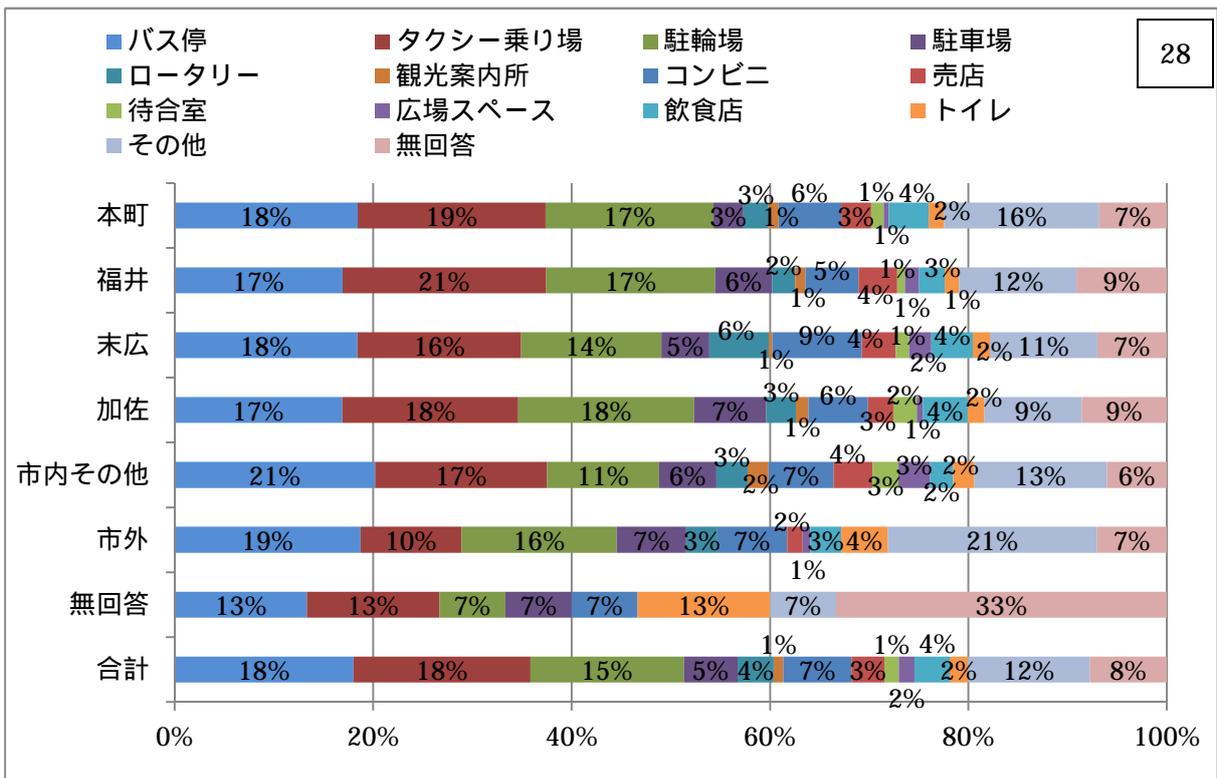


問7 再生後の三木駅に必要と思われるものは何ですか？（3つまで回答）

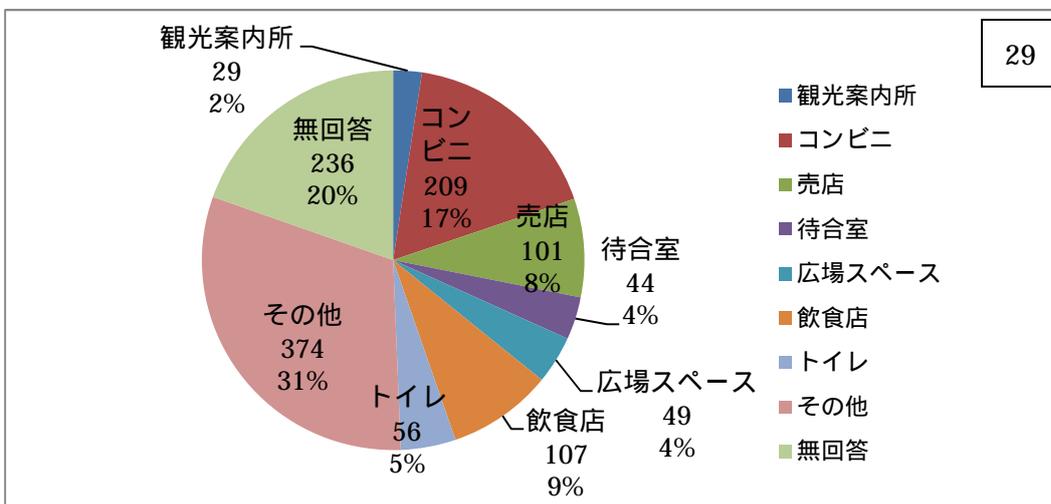
「バス停」18%、「タクシー乗り場」18%、「駐輪場」15%の上位3つは、男女別、年齢別、居住地別のいずれにおいても同じ傾向となっています。

「コンビニ」「売店」を合わせると、約1割となっています。

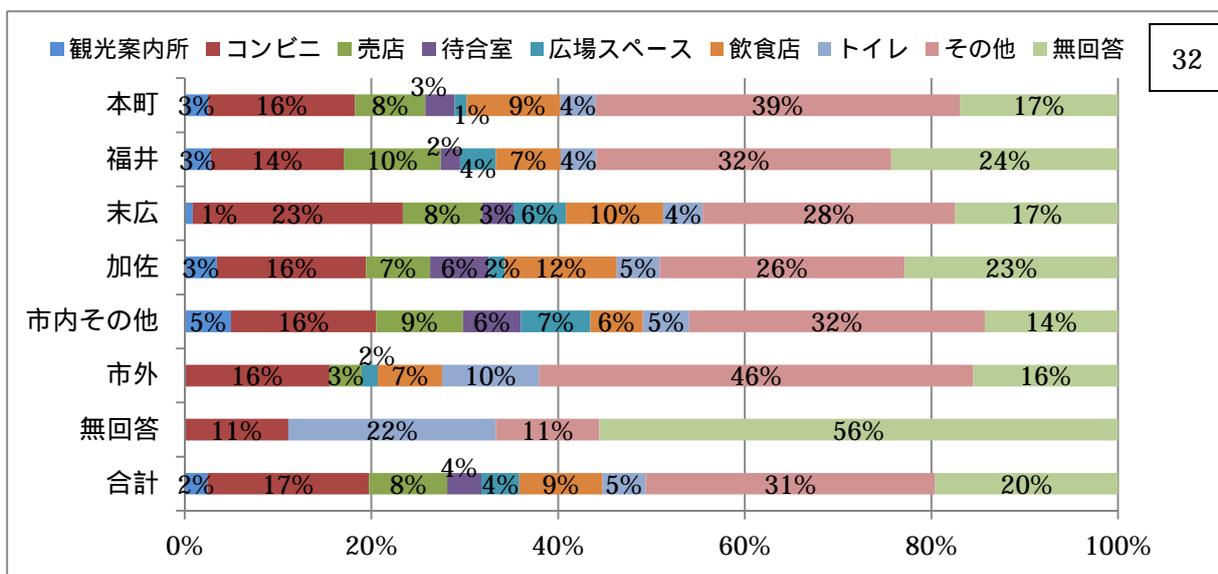
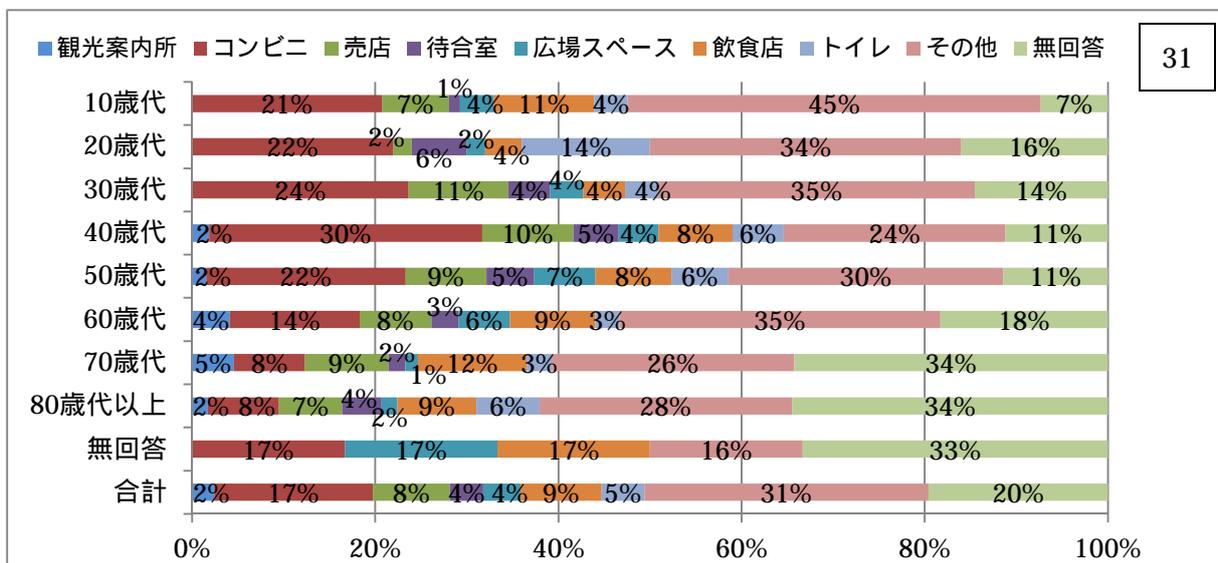
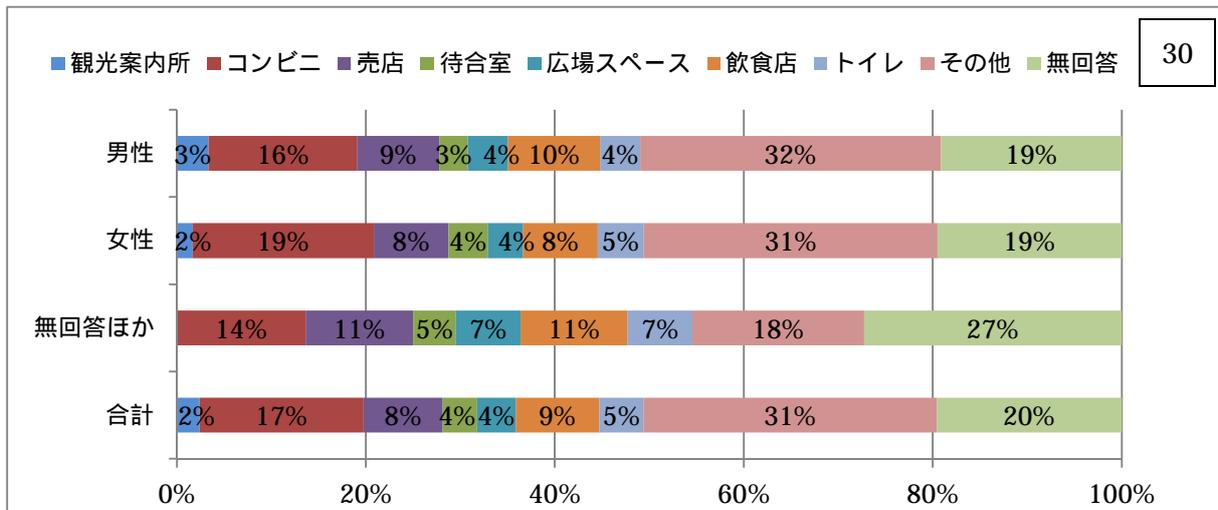




駅利便施設に回答を絞ると、「コンビニ」「売店」の合計が25%となっています。約3割を占める「その他」については、「送迎用乗降場」や「休憩所」、「ショッピングモール」、「駅員の常駐」などの回答がありました。



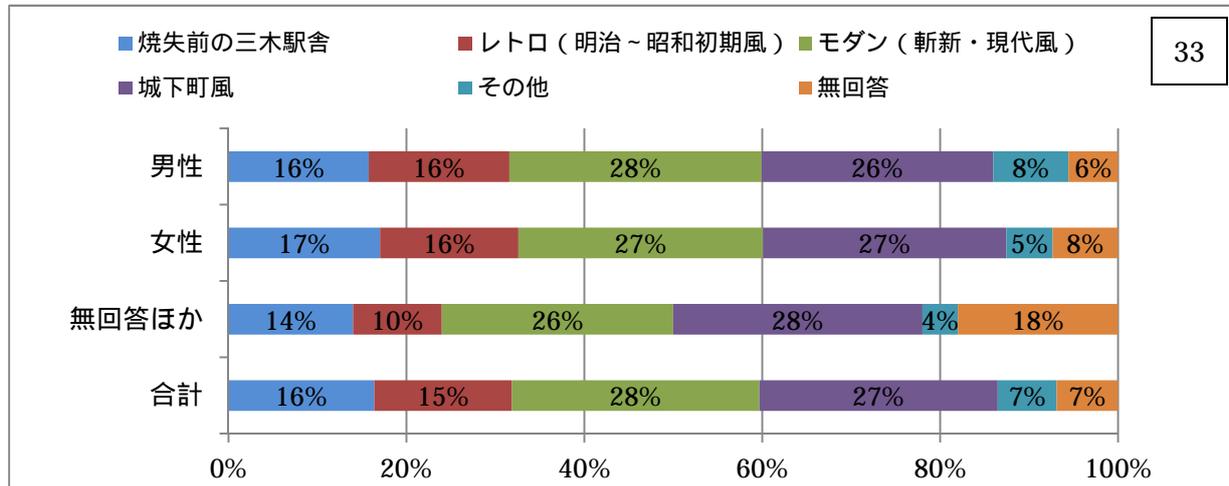
男女別、年齢別、居住地別のいずれにおいても、「コンビニ」「売店」の割合が大きくなっています。



問8 魅力的な駅づくりのために、再生後の三木駅舎（外観等）はどのようなイメージがよいですか？

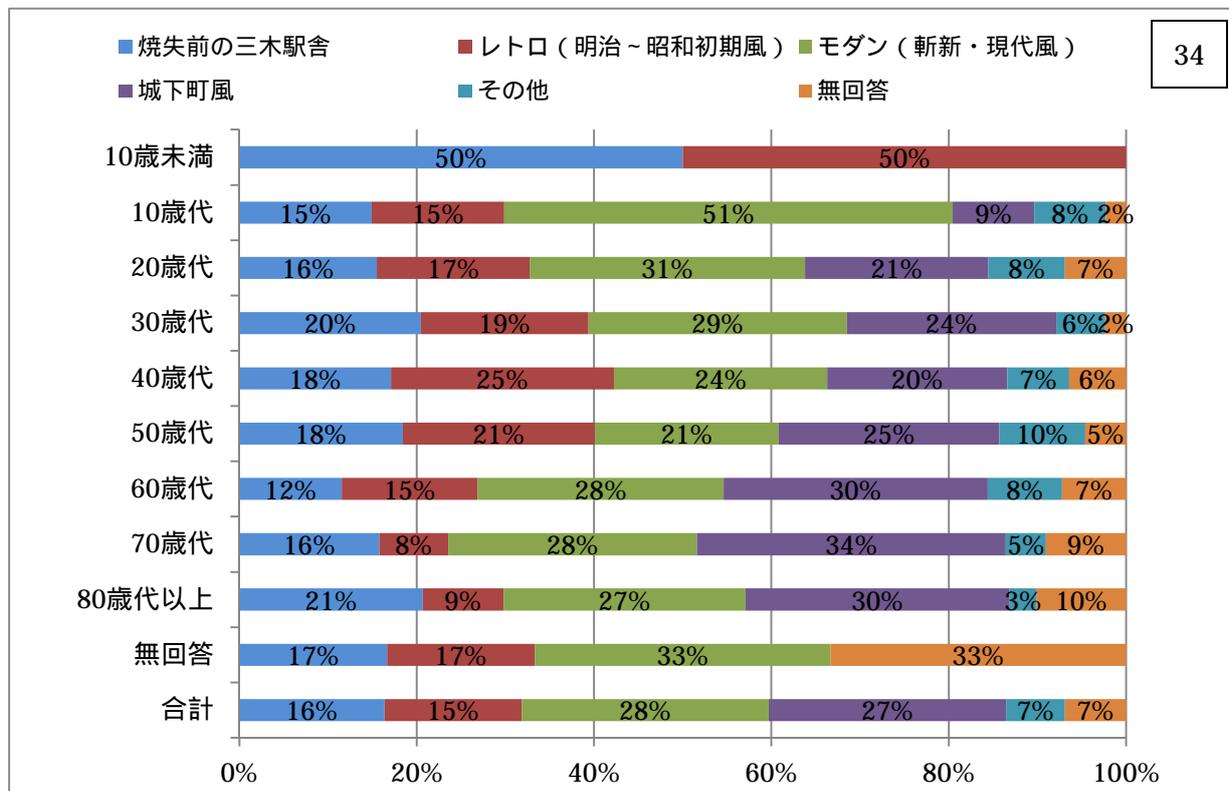
全体の割合では、「モダン（斬新・現代風）」28%と「城下町風」27%がほぼ同じ割合となっています。

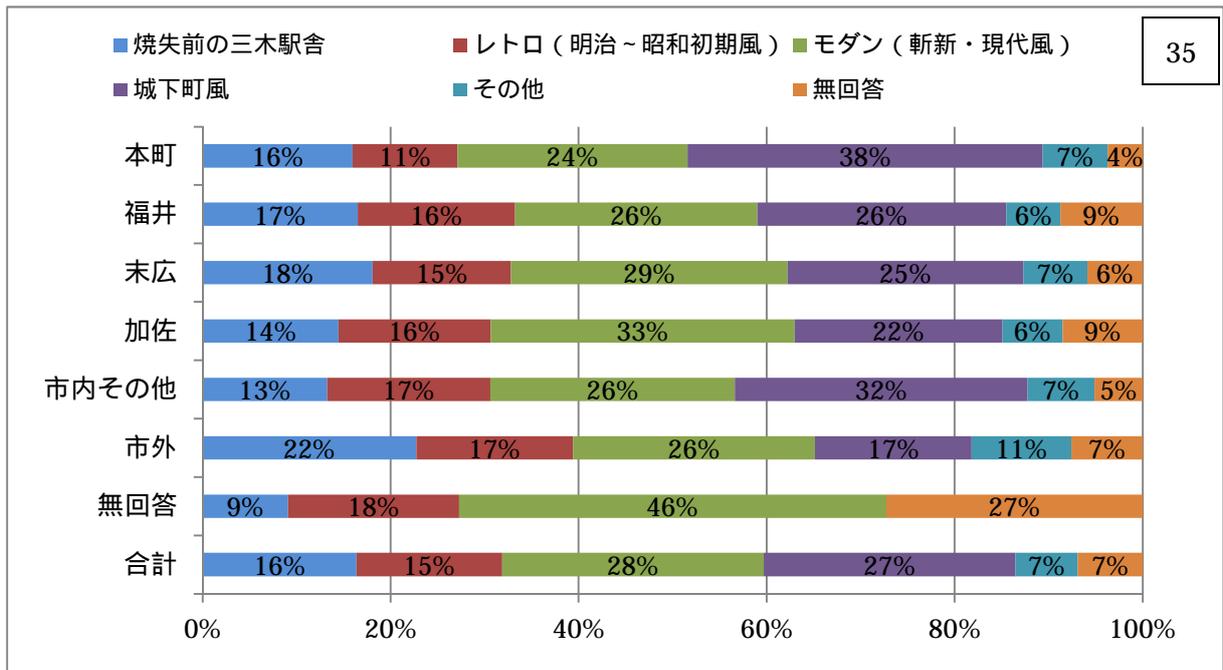
一方、「焼失前の三木駅舎」は16%と、やや低くなっています。



年齢別や居住地別においても、ほぼ同様の傾向にあります。

居住地別において市外回答者の割合をみると、「焼失前の三木駅」「モダン（斬新・現代風）」の割合が大きくなっている一方で、「城下町風」が低くなっています。





三木駅を「利用している」かたの回答は合計値とほぼ同様となっていますが、「城下町風」が「モダン (斬新・現代風)」よりも若干大きくなっています。

